

徳島県

「行き場のない患者を生み出さず、全ての患者の状態に適応した医療・介護サービスが提供されること」を目指して

資料概要：徳島県では、県医師会、大学病院等と一丸となって、地域医療構想の実現に向けて努力しています。

1 都道府県及び構想区域の基礎情報



構想区域	人口	市町村数	報告対象 病院数	公立 病院	公的 医療 機関 等	その他	報告 対象 有床 診療 所	医師数	人口10 万対
東部圏域	527,175	12	63	3	5	55	81	1,836	349.7
南部圏域	147,656	8	18	5	4	9	7	374	256.7
西部圏域	80,902	4	14	3	0	11	14	159	200.0

構想区域	平成28年度病床機能報告における病床数								2025年病床数の必要量				
	高度急性 期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	非稼働 病棟	未報告	合計	高度急性 期	急性期	回復期	慢性期	合計
東部圏域	1,046	2,547	1,255	3,693	185	185	155	8,881	492	1,605	2,080	1,946	6,123
南部圏域	405	604	219	721	84	84	0	2,033	179	514	613	557	1,863
西部圏域	10	410	222	621	117	117	0	1,380	47	274	310	377	1,008

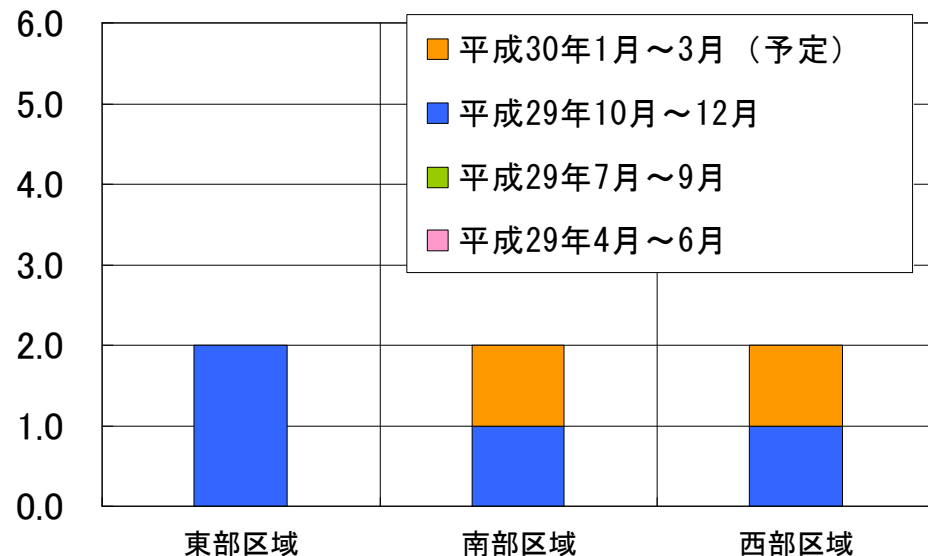
※H29.12月時点

2 徳島県の特徴

- ・ 3 圏域とも、既存病床＞必要病床＞基準病床
- ・ 南部圏域と西部圏域は、いかに必要病床数を維持するかに焦点
- ・ 医師数は全国トップクラス（と言われている）
- ・ 医師の偏在が顕著（東部圏域に医療施設従事医師の77.5%が集中）

3 地域医療構想調整会議における議論の進捗状況

■ 構想区域ごとの調整会議の開催状況（開催延べ回数）（平成29年12月末時点）

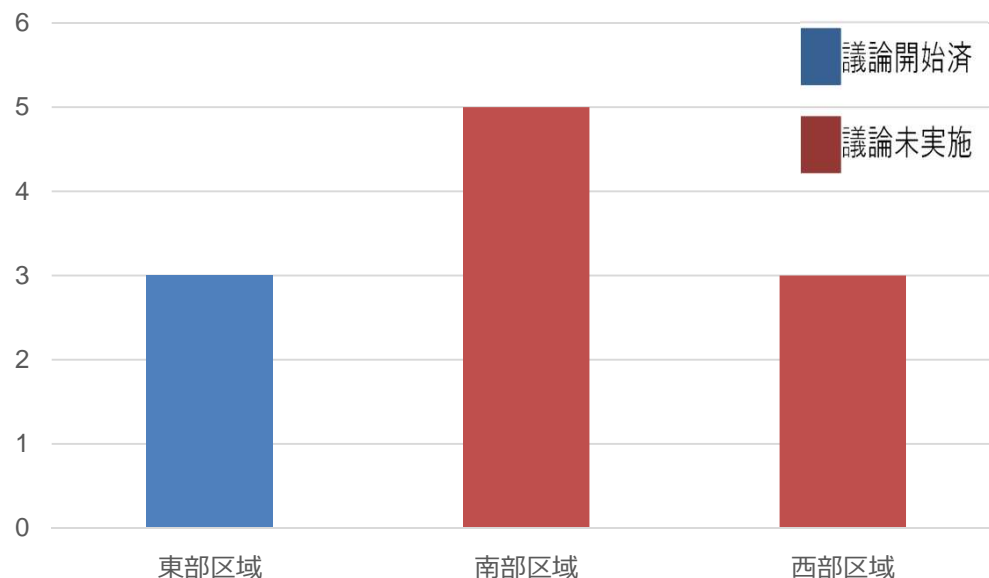


■ 意見交換会等の取組例

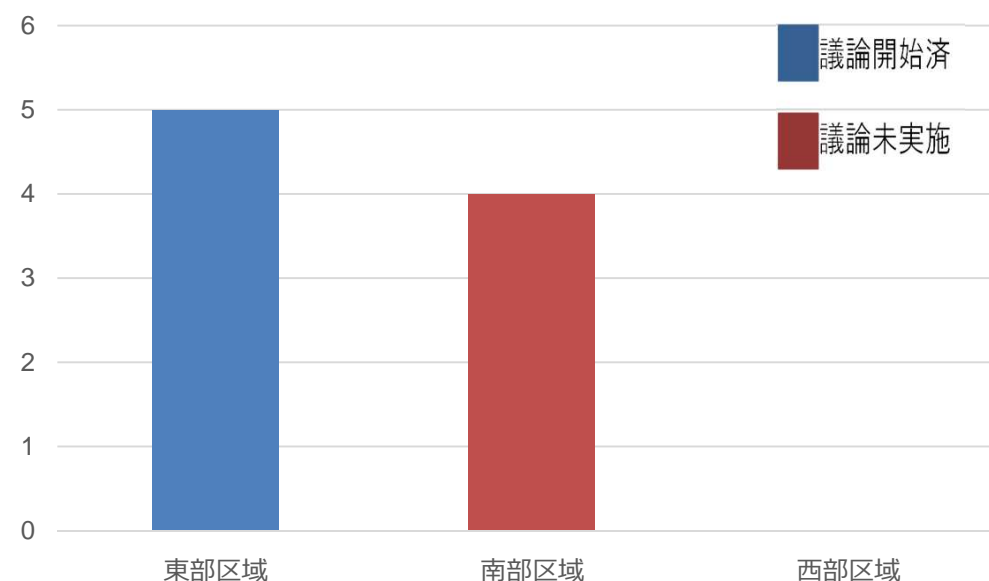
- ・ 郡市医師会主催の在宅医療関係者会議等に参加し、地域医療構想を説明
- ・ 調整会議にワーキンググループを設置し、より深い議論を予定

4 新公立病院改革プラン及び公的医療機関等2025プランの進捗状況

- 構想区域ごとの新公立病院改革プランについて、調整会議での議論を開始した病院数／策定対象病院数



- 構想区域ごとの公的医療機関等2025プランについて、調整会議での議論を開始した病院数／策定対象病院数



- プランの活用について

協議の進め方

- ・ 策定対象病院の院長等が調整会議へ出席・プランの説明
- ・ 調整会議委員から質疑

スケジュール

- ・ 東部圏域は12月に議論を開始
- ・ 南部・西部圏域は1月に議論を開始

5 地域医療構想の達成に向けた独自の工夫

- ・ 県医師会や大学病院の委員が地域医療の体制構築に積極的であること
- ・ 委員の意見を参考に、調整会議で議論すべき事項を整理したこと

6 医療機関の再編・統合の参考事例

「JA阿南共栄病院」と「阿南医師会中央病院」の統合

徳島県における「病床機能分化への取り組み」と21世紀の「地域完結型医療モデル」の構築

実現に向けた所用財源の確保 (地域医療介護総合確保基金) 30億円～35億円＋各種補助金

(本案件の5つの特徴・モデル性)

- 1 民間病院（医師会病院）と公的病院（JA病院）との「再編・統合」案件（地域医療に必要な医師確保）
- 2 医師会中央病院（災害拠点病院）施設を継承した再編、存続組織はJA厚生連。（民間拠点を継承）
- 3 「病床削減数」は最大「▲30%以上」に達する見込みであること。（572床→398床）
- 4 2025年問題解決への「在宅医療」推進に向けた病床機能転換を先行的に実施（慢性期病床の確保）
- 5 「地域医療ビジョン」を先取りし、地域の街づくりと一体型の医療機関を構築。

1 緩和ケア病棟	15床
2 地域包括ケア	30床
3 療養病棟	50床
4 回復期リハ	40床

JA阿南共栄病院



・耐震性なし
・老朽化
施設閉院へ

・機能分化
(病床削減、慢性期確保)
・地域完結型医療機関への転換
(病診連携の推進等)
・医師会病院を無償譲渡
(社会資本の有効活用)

阿南医師会中央病院

(JA厚生連)阿南医療センター

新病院の備える機能

- 1 地域医療支援病院
- 2 救急告示病院(輪番)
- 3 在宅医療拠点病院
- 4 災害拠点病院
- 5 臨床研修指定病院 等

H23 耐震強化済み
医療施設耐震化基金 4.6億円

地元阿南市等が全面支援

平成27年6月 基本・実施設計に着手

平成29年4月着工(建築工事)→平成31年春開院予定

21世紀の
地域完結型医療モデル

7 都道府県としての来年度への抱負

地域医療構想調整会議の運営について

行き場のない患者を生み出さないよう、オール徳島で協議しています。

医療機関の機能分化・連携の支援について

平成28年度から開始された「病床機能分化・連携促進基盤整備事業」が3年目を迎えます。

診療報酬の改定を受け、各医療機関における自主的な機能分化・連携の取組が加速するものと考えており、制度の周知等により、各医療機関の取組を支援します！

介護施設・在宅医療等の整備について

医療と介護の協議の場を効果的に活用していければいいんじゃないかと。